

1. 開催年月日 令和6年3月28日
2. 開催場所 三原リージョンプラザ内FMみはら会議室
3. 委員出席
委員総数 6名
出席委員数 4名
- 放送事業者出席者
2名

4. 議題

- ・局からの近況報告
- ・番組審議について

5 議事の概要

6 審議内容

(1) 開会宣言

放送事業者からの開会宣言

(2) 局からの報告

4月からの番組改編、新しいパーソナリティについて

事務局より以下の通り報告があった。

事務局「5月1日に6周年、7年目に突入する。今回の番組改編では大きな変更はしていない。朝、夕方の情報番組を中心に安定した放送ができる体制作りを優先した。3月末で終わる番組はないが休止する番組はある。『テツロー&むうの夢100%』。これはメインパーソナリティが選挙に立候補するため、番組出演ができなくなったため。また、今後、選挙結果により当選した場合、番組は終了する。これは議員が番組を持つことができないためである。今は立候補している段階なので一旦、番組は休みに入る。今後の選挙の結果次第で番組の継続について考えていく。また、今後のこともあり、今回、選挙期間中の立候補者、運動員そして、当選後の議員の番組出演についてガイドラインを作成した。選挙期間中は立候補者、運動員はラジオに出ることはできない。また、当選した場合はラジオ番組を持つことや番組出演はできない。もちろん、議員としての業務を告知する場合は例外。このようなことを明文化した。」

事務局「新しいパーソナリティ二人が少しずつではあるが出演するようになっている。神明市などのレポートなどで出演している。」

A 氏「このガイドラインは総務省などから指導が入っているのか。」

事務局「こちらについては局の中で決めている。もちろん、他局の対応状況等を参考にしている。ただ、局によって成り立ちが違う。それぞれが決めていく必要がある。」

B 氏「各局方針があるので業界全体で揃えるのは難しいのではないかと。今後、市

長選挙などもある。規定を作っていくことは大切なことだと思う。選挙管理委員会などからアドバイスを受けた方が良いかもしれない。」

事務局「今年三原市でも選挙がある。選挙管理委員会に相談してみる。いずれにしても市長などはメディアを使って業務を告知していく必要はある。」

A 氏「近隣の局と情報交換してそれぞれが決めておくことは大切。」

C 氏「いずれにしても明文化しておくは大切なこと。その都度、説明するより、先に明文化していくことは大切。」

B 氏「FM東広島の番組をスタートしたことはとても良い事だと思う。別のエリアの話が聞けるのは良いと思う。折角なので番組表にも『FM東広島制作番組』というのがわかるようにしておいた方が良くはないか。」

事務局「確かにそうです。これは次回から改善していく。」

A 氏「今回の放送による効果については良く調べた方が良くはないか。マーケットを三原だけで考えると小さいが近隣のエリアまで増やすとマーケットも広がってくる。営業上のメリットにもなる。東広島のスポンサーがどれぐらいのメリットを感じているのか、調べてみてはどうか。東広島だけではなく、尾道、福山のスポンサーにも声を掛けていくことができるのではないか。」

事務局「商圈が東広島と三原は重なっている部分がある。そういったことから出てきた案件。昔、映画を観に行くのであれば福山だったが今は東広島に行く人も出てきた。三原から東広島に行く事が増えてきている。マーケットは広がってきている。」

第一号議案「番組審議について」

番組名：イブニングスペシャル

2月1日放送分について

三原市姉妹都市パーマストンノース市グランド・スミス市長出演

放送日：毎週月曜日～金曜日曜日 17時～19時まで

事務局「5年ほど前に三原市とニュージーランドのパーマストンノース市が姉妹都市になったことから、三原市を紹介するビデオが作成された。このナレーションをFMみはらで録音した。同じ英語でも国によって訛りなどがあり、違う。パーマストンノース市出身の方がいて、その方にナレーションのお願いした。英語を扱うことは局にとって課題である。今回、ご意見を頂きたいのが英語の翻訳について。質問を一つするにしてもパーソナリティから日本語で質問を行い、それを通訳が市長に英語に訳して質問をする。これを受けて市長が英語で回答を行い、通訳がそれを受けて、日本語でパーソナリティに回答する、という流れになる。この流れをリスナーが聞いていてどう思うか。今後、どういう風にして進めていけば良いかということも含め、聞かせて頂ければと思う。テレビであれば、英語で回答しているところを流し、テロップで日本語を入れれば良い。ラジオの場合、それが出来ない。生放送でなければ、編集で翻訳の部分をカットすることができるが今回のようにスケジュールがタイトだと事前収録が難しく、生放送になる。」

B 氏「今回の内容で良いと思う。パーソナリティも翻訳の方も良くやっているのではないかと思う。そして、生放送の方が良い。少し、フランクに回答されている雰囲気良く伝わってきた。通訳をする方も大変だができれば生放送の方が良いのではないかと思う。」

- C 氏「生の雰囲気が出てよかったと思う。限られた時間でやっていくのであれば別の方法もあるかもしれないが、生の雰囲気を出していくのであれば今回のようなやり方で良いのではないかと思う。」
- B 氏「今回のようにこういった方（海外の方）にも出て頂くことは良いと思う。もちろん限られた時間の中で通訳をしていくことは大変。でも会話の中であったように『日本では冬ですがニュージーランドでは夏です。5度ぐらい違いますかね』こういったことが声で聴けるのもラジオの良いところだと思う。ちょっとしたことだが海外の方が出演するとそれぞれの国の違いをリアルに感じることができる。」
- 事務局「スケジュールの関係で生放送になってしまったがその場の雰囲気とか、その日の流れからの空気感を伝えるということに関しては生放送で良かったのかと思う。」
- B 氏「海外の方がインタビューを受けているのをテレビなどで見ていると長い話をした後に通訳の回答がものすごく短いことがある。本当にそんなことを話していたのかと思う瞬間がある。今回のように丁寧に話をしてくれると安心する部分もある。」
- 事務局「スマートフォンの翻訳機能もどんどん進んでいる。英語以外でも翻訳することができるようになってきている。将来的には放送などに使えるようになるのか、期待する部分があるが生で訳していく部分の雰囲気も大切だと思っている。」